

住まいと暮らし

くらしのすべては住まいから。
そんな思いで「住まい」と「くらし」に
役立つ情報をお届けします。



「これらの知識を頭に入れて提案するのもICの役目。例えば木には二酸化窒素の浄化吸収機能があります。切り口(木口・板目)によって効果が変わります。より効果的に切り出したスリット材などもあるんですよ(秋山さん)

同団体では、木材の中でも「国産材」の使用にこだわっている。実は日本の森林率(森林面積÷国土面積)は、フィンランドに次いで世界2位

「これには、植樹をしてから50年〜100年単位で考えないと市場には出せない林業のスパンや、その間に起きた輸入材の普及などさまざまな要因があります。この流れを国産材に戻していきたい。国産材を使えば輸送にかかっているCO2などの環境負荷も減らすことができ、SDGs(持続可能な開発目標)への貢献にもなります。エコにも繋がっているんです(秋山さん)

**経年変化も味になる
「手をかける楽しみ」を見出して**

木を使った住まいのアイデア事例

■メーター用格子/色の移り変わり
経年変化で風合いが変わる。保護のために塗装も行った。



■木目から決めて作った「ダイニングテーブル」



LDK空間で大きな存在感を放つダイニングテーブル。タイルとの組み合わせもこだわり。

(担当IC: 林真理子/施工: 暮らしのスタジオ株式会社)

木を使った住まいで「気持ちよく」「ていねいに」暮らす

見た目や香りなど癒しを与えてくれる「木」は、私たちの住まいとも切っても切り離せない存在。
(一社)日本インテリアコーディネーター協会内に所属するインテリアコーディネーター(以下IC)から結成された「木づかいクラブ」は、「住まいに木を使うこと」の良さを広めるために活動を行っている。同会の秋山延江さん、河原典子さん、松本みどりさんに話を聞いた。



松本みどりさん 秋山延江さん(右) 河原典子さん(左)

「ガーデニングが趣味の方だからこそ、提案いたしました。愛知県の三河風来杉を取り寄せ、お客さまと大工さんと3人でバーナーで焼杉に加工して造りました」(河原さん)

グリーンを楽しめるように、照明などをコーディネートし、アイアンのテーブルの脚には落下防止のために丸く切り出した木をはめ込んだ。「周囲の田園風景とも調和して、グリーンが映えるお気に入りのデッキになりました」
また「経年変化して印象が変わるのも木の魅力です」。メータスペースの東濃松の格子は、初めはカンナ仕上げのピリッとした白木だったがシルバグレイの風合いに変化。17年目に保護膜として塗装し色を添えた。
「木には経年変化を生かすという楽しみがありますし、ちよつとした傷も味になります。ICが木の特性を十分に理解していれば、経年変化の状態を生かすメンテナンスやアドバイスができます。住まいに手をかける楽しみを見出していただけなら(河原さん)と、その魅力を語る。

◆ 新型コロナウイルス感染拡大防止による外出自粛で、人々は家にいる時間が増え「住まいを見直したい」という声も多く聞かれています。
「家で過ごす時間の大切さが見直され『木を使った住まいで気持ちよく過ごしたい』という方も増えてきました。
今後IC同士情報交換などを欠かさず、木の魅力を発信していきたいと思えます」(松本さん)
(一社)日本インテリアコーディネーター協会 <http://www.ic.or.jp>